

事業所名	とことん	支援プログラム	作成日	2025 年	1 月	14 日
法人（事業所）理念	①すべての人に笑顔と安心を与え、みんなで個々の幸せを追求できる未来を目指します。 ②地域に根差して、福祉を活性化していきます。					
支援方針	子どもたちが持つ能力や可能性を引き出し 伸ばすことにとことん支援します。 ①「自信」スモールステップで「できた！」を増やし、「できる！」につなげていけるような支援をします。②「自尊心」たくさんの褒められ体験を通して、大切にされていることを知り、自分を好きになれるような支援をします。③「自己決定」安心して自分の決断を伝えられるような支援・雰囲気づくりに努めます。④「自立」社会に順応していくための生きていく力を育てるような支援をします。⑤「自己研鑽」職員は支援の質の向上のために常に自分磨きに努めます。					
営業時間	8 時	30 分から	17 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	・来所時には、検温チェック本人の今日の様子などを聞き、気になる本児の様子などが見られた際には保護者へ連絡を行います・PT見立ての下、食事面の際の姿勢保持やスプーンやフォークなどの使い方の 困りごとをご家族と話し合い支援を進めていきます・来所準備や排泄時の着脱、スプーンやフォークやお箸の操作、ボタンの練習などプログラムに取り入れていきます・小さなお友達が多いので時間の流れを空間や物を使って視覚的に理解できるような物理的構造化を行います				
	運動・感覚	・ふれあいウォークなどで、支援員が指示した動きや言葉をしっかりと見聞きし、視覚と聴覚を使い分けながら身体を動かすことで、身体のコントロール能力や全身のバランス感覚を養っていきます。・座位姿勢を維持しやすいように、個々の身体特性に合った椅子や机を使用し環境設定を行います。・砂利道や坂道などの様々な道路環境でも、身体バランスを保ったまま問題なく移動できるように、平均マット渡りやサーキットトレーニングなどで足場の悪い環境を経験することで足部への視線誘導や注意の意識を高めていきます。・バランスボールやトランポリンを用いて運動遊びを行うことで（上に乗る、ジャンプする、転がす、座ってみる等）、運動の基礎となる体幹筋や姿勢を保持するときに必要な筋肉をトレーニングすることで、全身のバランス感覚を養っていきます。・ブランコやシーツブランコを行うことで、姿勢の安定性を上げるために必要な「前庭感覚」を養っていきます。・就学に向けて、姿勢を安定させたまま視覚情報を正しく利用することが大切になってくるので、ブランコをしながらキャラクタークイズをするなど少しずつ段階を踏みながら「前庭感覚の強化」と「視覚的な情報」の統合を促していきます。・ボーリングや的あての遊びを行うことで、自分の行動や力加減が周囲に環境にどのような変化を生み出したのかを視覚、聴覚、触覚で経験する機会を増やしフィードバックを促すことで感覚処理や感覚調整の理解やイメージの発達を促していきます。・個人の感覚特性を深く理解し、個々に対して適正な環境づくりや関わりを行うことで（視覚支援、靴下の着脱等）感覚運動経験への参加を促します。また、感覚運動経験が増えることで、日常生活での困りごとへの工夫、改善につなげます。・上記に記載した様々な療育中の運動遊びの中で得た経験や体験とともに、自身の身体構造のイメージと周囲環境とのつながりや関わりをより深く理解することで、身体のコントロール力やバランス感覚を養っていきます。				
	認知・行動	・言葉と行動と絵カードを使い、名詞の理解につなげます・視覚、嗅覚、触覚などを使った感覚遊びを通して刺激と意味を結び付けられるように支援します・時間の流れについては、場所や絵カードなどでの視覚の提示やタイマーなどで時間の終わりを伝えていきます・個人の発達段階に合わせて数量、大小、色の概念を教えます・一人ひとりにあったペースでプログラムを組み立てていきます・家族支援の中で家族が困るこだわりについては積極的に支援を行います・年齢があがるにつれて時間の流れを時計などで伝えていきます・問題行動に対してABAを使い、行動の機能を理解しつつその行動を強化しないように支援します				
	言語コミュニケーション	・場面にあった要求言語（マンド）を遊びの中より教えていきます・絵カードや3Dの課題を使い、名詞（動物・果物・生活道具等）を受容（インプット）から表出（アウトプット）が出来るように支援します・場面設定を行った上で、役割の提示や行動を教えるその時に必要なコミュニケーションスキルを教えます・発達段階を理解した上で、意思の伝達の方法の一つとしてマンド（要求言語）のサインを教えて、本児よりサインが出てくるように練習します・PT見立ての下に必要な身体的能力の支援を行っていきます・今から何をするのか？その後何があるのか？など絵カードや実物を見せて見通しをもって取り組めるように支援します・個々の障害特性や発達段階を理解して、本児にとって必要な視覚化・サイン・ジェスチャーなどを教えて意思を伝えられるように支援します				
	人間関係社会性	支援者との信頼関係を築き、支援者を通して他児との関係性を築いていけるように支援します・模倣（非言語模倣）のプログラムに取り組みむ・プレイスキルの向上→現在のプレイのスキルを見て次の段階のプレイスキルにつなげて行く（プレイスキルがない場合には、プログラムないで教えていく）・大人と遊ぶ→大人を介して3人称で遊ぶ→大人はフェードアウトして子ども同士で遊ぶ（大人の介入が必要な際には、黒子として子どもにつく）・感情のプログラムに取り組み→気持ちが上がった時の対応を行動として教える・個人の集団への能力が整いしたい、少々集団への参加を行う				
家族支援	・定期面談（1回以上／年）また、年に2回の面談以外にも電話による日々の困りごとへの相談、就学にむけた相談なども随時行っています。 ・希望される方には活動の見学を行っています。 ・相談・面談は随時対応します。	移行支援	・就学先との連絡調整			
地域支援・地域連携	・こどもひろば ・保育所等訪問支援事業 ・自立支援協議会	職員の質の向上	・施設内・外研修の参加			
主な行事等	・避難訓練（火災）					